

## 第9章 社会連携・社会貢献

## (1) 現状説明

点検・評価項目①：大学の教育研究成果を適切に社会に還元するための社会連携・社会貢献に関する方針を明示しているか。

## 【評価の視点】

1：大学の理念・目的、各学部・研究科の目的等を踏まえた社会連携・社会貢献に関する方針の適切な明示

1) 本学は、以下のとおり、「社会連携・社会貢献に関する方針」を定め、ホームページに掲載している。学是「仁」と理念「不断前進」に基づき、国際的研究・教育拠点として、地域社会、産業界、国際社会等との幅広い連携活動を展開し、教育・研究・臨床の成果を広く社会に還元することにより、社会連携・社会貢献・国際協力を積極的に推進していくことを基本方針としており、「社会連携」、「産学官連携」、「国際社会への貢献」の項目について、それぞれ方針を纏めている。

(大大評9-1 法人ホームページ 「各種方針」 「社会連携・社会貢献に関する方針」)

## 《社会連携・社会貢献について》

1) 社会連携・社会貢献については、以下の方針を明示している。

- ・ 本学の教育・研究・臨床成果及び人的資源等を活用して地域社会との連携活動を推進し、地域社会の持続的発展に貢献するとともに、本学における教育研究活動の活性化を図ります。
- ・ 法人直轄組織として社会連携推進室、各キャンパス及び各医学部附属病院に社会連携推進室分室を置き、社会連携の推進を図ります。
- ・ 各学部・研究科は、自治体等と連携協力して、地域住民に対する公開講座・公開講演会・スポーツイベント・健康教室等を充実させ、生涯学習の要望に応じていきます。
- ・ 医学部附属病院群は、高度先進医療を積極的に実践するとともに、地域医療の中核病院としての役割を果たします。具体的には、各病院の特色に合わせて次のような取組みを推進します。①日常診療におけるスムーズな病病連携、病診連携の推進、②地域の医療従事者への医療情報の提供、③医師会や自治体主催の講演会等への講師派遣、④地域住民に最新の医療情報等の学習機会を提供する市民公開講座・研修会の開催
- ・ 高大連携活動を積極的に展開し、高校生に対して大学で学ぶ意義や大学での学修に必要な能力・態度についての理解を深めるよう取組みます。

2) 社会連携に必要な事項は、「学校法人順天堂社会連携推進室運営規程」に定めている。また、各学部及び大学院研究科でも、社会連携・社会貢献に関する方針を個別に定めており、それぞれのシラバス、学生募集要項やホームページ等に公表・明示している。

(大社連9-1 学校法人順天堂社会連携推進室運営規程)

(大大評9-2 各学部・研究科の社会連携・社会貢献に関する方針)

## 《産学官連携について》

1) 産学官連携については、以下の方針を明示している。

- ・ 産学官連携活動を促進するため、革新的医療技術開発研究センター及び研究戦略推進センターの体制を強化し、次の方策を実施します。
- [革新的医療技術開発研究センター]
- (1) 社会実装を目指した実用化研究を活性化させるため、オープンイノベーションを推進します。
- (2) SDGs、カーボンニュートラルの活動に貢献するヘルスケア分野の国際共同研究を推進します。
- [研究戦略推進センター]
- (1) 企業・他大学・研究機関等との連携活動に積極的に取組み、研究成果を社会に還元します。

## 第9章 社会連携・社会貢献

- (2) 寄付講座、共同研究講座及び産学協同研究講座の設置や共同研究・受託研究のより一層の外部資金・人材受け入れに努め、教育研究の活性化・多様化を図ります。
- (3) 研究倫理に関するルールに基づいた適正な研究の遂行と研究費の適正管理に努めます。

- 2) 「順天堂大学産学官連携ポリシー」では、教育と研究という基本使命に加えて、研究成果の社会還元を第三の使命とし、本法人における産学官連携活動の活性化を図る方針を明示している。研究戦略推進センター内の「産学官研究連携推進室」を中心に産学官連携を推進している。

(大研戦9-1 順天堂大学産学官連携ポリシー)

(大研戦8-4 順天堂大学研究戦略推進センター管理運営内規)

- 3) 「順天堂大学革新的医療技術開発研究センター管理運営規程」では、本学の研究開発の推進及び革新的医療技術を実用化まで導く研究活動の発展を図る方針を明示している。また、オープンイノベーションプログラム GAUDI (Global Alliance Under the Dynamic Innovation) のホームページ等に、ライフサイエンス分野における研究開発の促進と開発シーズの社会実装化を使命とし、企業や他大学等、学内外を対象とした研究開発支援に取り組む方針を公表・明示している。

(大革新8-1 順天堂大学革新的医療技術開発研究センター管理運営規程)

(大革新9-1 GAUDI パンフレット)

#### 《他学との連携について》

- 1) 他学との連携については、他の大学及び高等学校との間で教育・研究等に関する連携協定を個別に締結し、そのなかで連携・協力に関する具体的な方針を定めている。なお、連携協定締結先の数は、大学間は延べ50校を超え、高大間は5校となっている。

(大大評9-3 大学間連携一覧)

#### 《国際社会への貢献について》

- 1) 国際社会への貢献については、以下の方針を明示している。

「順天堂大学国際化ビジョン」に基づき、以下の取組みを行います。

(教育活動の国際化)

1. 国内外の高等教育機関との連携を図り、若手研究者の海外派遣や学生の留学に向けたプログラムの充実と支援体制の強化を図ります。
2. 外国人教員や留学生の受入れを拡大し、協働して学びあう教育環境の充実を図ります。
3. 異なる言語や多様な文化をもった国内外の地域やコミュニティとの教育的な連携を強化します。

(研究活動の国際化)

1. 国内外の大学・研究機関等との研究ネットワークを強化し、基礎臨床融合・異分野連携研究を始めとする共同研究を拡大することによって研究の高度化・深化を図ります。
2. 国際的研究拠点に相応しい研究環境の整備や臨床研究拠点としての大学病院群の機能の充実を図り、産学官の有機的な連携をもってイノベーションの創出に取組みます。
3. 本学の独創的な研究成果等を国際学術誌等に速やかに公開するとともに社会への還元を進めるため国際シンポジウム等を積極的に開催します。

(学内体制の国際化)

1. 国際交流センターが中心となり、教育・研究の国際戦略を企画立案し、全学的な組織体制を強化します。
2. 本学に在籍した留学生・研究者等の海外ネットワーク組織の強化を図ります。

## 第9章 社会連携・社会貢献

3. グローバル化に対応する教職員の育成を図ります。
4. グローバル・リーダーシップ育成推進奨学金により若手研究者等の海外留学等を推進し、国際的に活躍する人材の輩出に努めます。

2) 教員及び学生の国際交流や国際共同研究・教育等具体的な業務については、「順天堂大学国際交流センター運営規程」に基づき「国際交流センター」がその役割を担っている。

(大国交9-1 順天堂大学 国際化ビジョン)

(大国交9-2 順天堂大学国際交流センター運営規程)

以上のことから、本学は、「健康総合大学・大学院大学」としての使命と地域社会のニーズを踏まえ、社会連携・社会貢献に関する方針を適切に明示していると評価する。

**点検・評価項目②：社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施しているか。また、教育研究成果等を適切に社会に還元しているか。**

## 【評価の視点】

- 1：学外組織との適切な連携体制
- 2：社会連携・社会貢献に関する活動による教育研究の推進
- 3：地域交流、国際交流事業への参加
- 4：社会連携・社会貢献において、COVID-19 への対応・対策を行ったか

## 《社会連携・社会貢献について》

- 1) 自治体との連携については、東京都文京区をはじめ、千葉県内では佐倉市、成田市、酒々井町、白井市、印西市、習志野市、栄町、浦安市、富里市の9自治体、静岡県では三島市、伊豆の国市の2自治体、他に埼玉県川口市、愛知県東郷町、愛媛県砥部町及び岩手県遠野市と連携協定を締結し、教育の振興、スポーツの発展、健康支援等、地域社会の発展に寄与することを目的とした取り組みを継続的に実施している。
- 2) 連携協定を締結した自治体とは、大学の社会連携推進室、各キャンパス及び附属病院に設置されている社会連携推進室分室が連絡を取り合い、必要に応じて連絡協議会等の場を設け、自治体の要望等に対応している。各キャンパス及び附属病院を拠点に公開講座等への講師派遣、自治体イベントへの参加等による地域住民との交流、地域貢献活動、スポーツ教室等の開催が活発に行われ、地域に根付いた事業となっている。
- 3) 各学部・研究科及び附属6病院では、公開講座・シンポジウムの開催、見学会の実施、ボランティア活動等、積極的に展開している。特に、COVID-19 への対応に関連して、附属6病院では、率先して多くの患者を受け入れ、治療にあたっている。
- (大大評9-4 各学部・研究科・附属病院における社会連携・社会貢献の取組み)
- 4) 近年では、新型コロナウイルス感染拡大という状況に鑑み、公開講座や運動教室等は、オンライン配信やオンデマンド配信、又は感染対策を徹底の上、人数制限を設ける等の対策をとり、対面で実施した。対面式とオンラインを活用するハイブリッド方式等も取り入れ、適宜、状況や対象者に合わせて最善と考えられる方法で実施している。

## 《産学官連携について》

- 1) 個別企業・団体等との間において、次のとおり連携協定を締結し、それぞれの分野において

## 第9章 社会連携・社会貢献

共同研究等の取り組みを展開している。

- (1) 国立研究開発法人理化学研究所：2012(平成24)年4月26日付で、相互の研究能力と人材を活かし、国内外の学術及び技術の振興と有為な人材の育成に資することを目的として、連携基本協定を締結した。本協定に基づき、順天堂大学の豊富な医療実績、臨床現場からのニーズと理化学研究所のシーズを活かして、多くの共同研究を実施している。  
(大革新9-2 順天堂大学と理化学研究所が包括的基本協定)
  - (2) 花王株式会社：2015(平成27)年6月2日付で、「健康を科学する」という共通テーマのもと、両組織の連携・協力関係を推進するために、研究包括契約を締結した。本契約に基づき、社会のニーズに即した革新的な技術開発とその早期実用化を推進し、グローバルなイノベーションの創出を目指し、7号館12階オープンイノベーションラボを拠点に共同研究が進められている。  
(大革新9-3 順天堂大学と花王が産学連携の研究包括契約を締結)
  - (3) 東急不動産株式会社：2015(平成27)年10月29日付で、包括的連携協定を締結した。本協定により、本学と東急不動産は互いが有する資源を有効に活用し、相互の発展を通じて我が国が全世界に先駆けて直面する超高齢社会の課題を解決する新たなプログラムを構築し、健康長寿社会の実現を目指す共同研究が進められている。  
(大総務9-1 学校法人順天堂と東急不動産株式会社が包括連携協定を締結)
  - (4) 公益財団法人日本サッカー協会：2020(令和2)年11月17日付で、スポーツ競技水準の向上、スポーツを通じた地域活性化及び人々の健康増進を実現し、スポーツ文化の発展を図るため、包括的連携に関する協定を締結した。  
(大ス9-1 順天堂大学と公益財団法人日本サッカー協会が包括的連携協定を締結)
  - (5) 独立行政法人日本スポーツ振興センター (JSC)：2021(令和3)年3月24日付で、両者がそれぞれの特色を活かして、人的・知的資源の交流と物的資源の活用を図り、相互に連携・協力することにより、日本のスポーツ振興、スポーツ医・科学研究等の発展に資するとともに、スポーツにおける好循環に関わる先導的な役割を果たすことを目的に包括連携協定を締結した。  
(大ス9-2 順天堂大学と日本スポーツ振興センターが包括的連携協定を締結)
- 2) 2019(平成31)年3月に「UNIVAS」大学スポーツ協会が発足し、本学は発足時から「UNIVAS」に加盟した。本学は「UNIVAS」とともに学びの環境を充実させ、安心して競技に取り組めるようサポートしている。また、「大学スポーツを通じた地域貢献、地域活性化」、「スポーツ教育の推進」、「スポーツ科学の研究とその成果の社会還元」に取り組んでいる。2021(令和3)年度から、これまでの運動部運営委員会を発展的に解消し、スポーツ推進支援センター運営委員会を設置して、各運動部の強化のみならず、社会連携推進室や教職委員会とも連携をして、公立中学校の運動部活動の地域移行への対応等、地域への取り組みも拡充している。
- 3) 奨学目的の寄付を有効に活用した寄付講座や共同研究の基盤となる共同研究講座を設置して、教育研究の豊富化や活性化を図っている。人材養成とともに共同研究を通して産学官連携の強化を図り、研究成果の社会実装化を目指している。近年は、積極的な産学官連携活動により、寄付講座や共同研究講座の設置数を急速に増やしており、2022(令和4)年度には共同研究講座46件(うち産学協同研究講座3件)、寄付講座13件の計59講座が設置されている。設置状況は、事業報告書「寄付講座・共同研究講座・産学協同研究講座」の項目にまと

## 第9章 社会連携・社会貢献

めている。

(大大評3-2 令和4年度 事業報告書 「寄付講座・共同研究講座・産学協同研究講座」)

- 4) 学内外の研究開発シーズの社会実装を推進するため、オープンイノベーションプログラム GAUDI を2019(令和元)年に発足した。学内外のエキスパートとも連携し、ワンストップで支援を実施している。発足以来累計で200件以上の研究開発相談を受け、GAUDI が支援した結果、現時点で、特定臨床研究又は治験に至ったシーズが10件、共同研究講座を設置し開発研究を進めるに至ったシーズが4件、更に企業導出等に至ったシーズが2件創出されている。

#### 《他学との連携について》

- 1) 他の大学及び高等学校との間においても、次のとおり連携協定を締結し、それぞれの協定に基づき、教育・研究等の推進に取り組んでいる。

- (1) 早稲田大学：医学と建築学の融合を図り、次世代環境医療、エコキャンパス・ホスピタル及び病院建築に関する研究を推進するため、2009(平成21)年3月に研究協力協定を締結した。4つのテーマのうち3テーマは、研究成果を新病棟において実現させ終了した。現在は感染環境制御をテーマに、定例的に共同研究会を開催し共同研究を推進している。

(大再編9-1 学校法人順天堂と学校法人早稲田大学との共同研究に関する覚書)

(大再編9-2 次世代環境医療研究会組織図)

(大再編9-3 2014(平成26)年2月21日(金)東京新聞「東京消防庁新基準適用第1号 順天堂の新病棟で訓練」)

- (2) 学校法人女子美術大学：2015(平成27)年5月20日付で、連携・協力に関する基本協定を締結した。同校の創立者の一人で、校主であった佐藤志津は、順天堂第二代堂主佐藤尚中の実の娘であり、第三代堂主佐藤進の妻であった。佐藤志津が亡くなった後は、佐藤進が校主・校長に就任し、その後、第四代堂主佐藤達次郎が同校の理事長、学長を務める等、同校とは歴史的に強い結びつきがある。芸術・癒し・デザインの分野に秀でた同校と、医療・健康・スポーツの分野に強みを持つ本学が協定を結んだことで、ヒーリングアート・癒し・スポーツメンタル等を切り口とした様々な分野、領域での連携協力や新たな取り組みが期待される。本協定に基づいて創設された「佐藤志津・小川秀興賞」の授与式を、毎年度挙行している。この賞は、女子美術大学卒業制作作品の中から優れた作品を表彰するもので、受賞作品はヒーリングアートとして、順天堂医院等に展示されている。

(大総務9-2 学校法人順天堂と学校法人女子美術大学が連携・協力に関する基本協定を締結)

- (3) 電気通信大学・星薬科大学：2016(平成28)年12月1日付で、3大学の「URA」(University Research Administrator) 人材の交流を契機とした、学術連携交流に関する3大学連携協定を締結した。各大学の異なるブランド領域(順天堂大学における医学、電気通信大学における工学、星薬科大学における薬学)を、URA人材を活用して異分野連携を促進するための組織的連携関係を構築している。2020(令和2)年12月9日には、3大学の共同研究の進捗報告とシーズ探索を目的とした、「順天堂大学・星薬科大学・電気通信大学 三大学合同フォーラム」を開催した。これ以降、2021(令和3)年3月2日に「第2回 三大学合同フォーラムー異分野融合に向けた領域探索ー」、2022(令和4)年3月7日に「第3回 三大学合同フォーラムー異分野融合に向けた領域探索・テーマ「睡眠」ー」、2023(令和5)年3月13日に「第4回三大学合同フォーラム ～メタバーブス:自己身体化と医療の未来～」

## 第9章 社会連携・社会貢献

を開催した。

(大総務9-3 国立大学法人電気通信大学と順天堂大学との学術連携交流協定書)

(大総務9-4 電気通信大学・順天堂大学・星薬科大学による学術連携交流協定締結)

- (4) 立命館大学：2015(平成27)年10月6日付で、研究・教育内容の充実と学術・文化の発展及び科学技術の高度化を図ることを目的とした学術交流に関する包括協定を締結した。両大学は、2013(平成25)年度に開始した「革新的イノベーション創出プログラム(COI STREAM)」のトライアル拠点として選定を受け、10年後を見通した革新的な研究開発課題を特定し、既存の分野・組織の壁を取り払い、企業・大学だけでは実現できない革新的なイノベーションを産学連携で実現する取り組みをスタートさせた。2015(平成27)年度には、分野・領域が共通するトライアル拠点の統合による「アクティブ・フォー・オール」拠点事業を開始して、2022(令和4)年3月に同事業は終了したが、2022(令和4)年4月以降は、健康寿命延伸を目途に、本学の資源を有効活用し、健康総合科学先端研究機構プロジェクトとして継続実施し、事業の発展と社会実装化を図る。また包括連携協定を締結している同大学とは、アクティブライフ共創コンソーシアムを立ち上げ、COI事業の産学連携推進と社会実装化を目指す。

(大総務9-5 順天堂大学と立命館大学が学術交流協定を締結)

- (5) 明治大学：2015(平成27)年12月18日付で、教育・研究活動の交流と連携の推進を目的とした大学間交流に関する包括協定を締結した。本学と明治大学は、2002(平成14)年7月から、首都大学院コンソーシアムでの単位互換協定や教員の連携による共同研究等の取り組みを行っている。本協定の締結により、これらの連携を更に推進・発展させ、教職員及び学生の交流や施設の相互利用等を通じて両大学の教育研究力の更なる向上を図るとともに、医学部を有する本学と法・理工・農学部を有する明治大学が互いの特長を活かして社会に貢献していくことを目指す。また、図書館の相互利用や、明治大学公開講座「江戸・明治期の医学・医療の歴史」への講師派遣を行っている。

(大総務9-6 順天堂大学と明治大学が包括協定を締結)

- (6) 東京藝術大学：2016(平成28)年3月23日付で、教育研究・人材交流・社会貢献・国際交流等の一層の充実と質の向上を図り、学術研究の発展と有為な人材の育成に寄与することを目的とした連携・協力に関する包括協定を締結した。音楽セラピー等の共同研究の推進や、解剖・病理分野と美術解剖学における連携、順天堂医院におけるホスピタルアート・ヒーリングアートの展開等、両大学の保有する世界最高水準の教育・研究資源の有効活用を図るとともに、「医学・医療と芸術の融合」による相乗効果を最大化することで、医学・芸術両分野の更なる発展を目指している。2020(令和2)年7月に、立命館大学との3学で共同開発した運動誘導アプリ「バイオシグナルアート」をプレスリリースした。

(大総務9-7 順天堂大学と東京藝術大学が連携・協力協定を締結)

- (7) 大学院の連携について、本学大学院医学研究科では、従来より、複数の大学院との間で交流・協力を通じて教育研究の充実を図るため、大学院学生が相互に必要な研究指導を受けることを目的とした「特別研究生交流協定」を締結している。これまでに、東京大学大学院、京都大学大学院、北海道大学大学院、千葉大学大学院、鹿児島大学大学院、横浜市立大学大学院、福島県立医科大学大学院、長崎大学大学院、東京医科歯科大学大学院、岡山大学大学院等と、それぞれ特別研究生交流協定を締結した。

## 第9章 社会連携・社会貢献

(8) 高大連携については、国際教養学部の開設を機に2015(平成27)年に昭和第一高等学校、神田女学園高等学校とそれぞれ教育提携協定を締結した。その後、2017(平成29)年には佐久長聖高等学校、2020(令和2)年には東京女子学園高等学校(現校名 芝国際高等学校)、2021(令和3)年には吉祥女子高等学校、恵泉女学園高等学校と締結する等、13の高等学校と連携協定を締結している。生徒を招いての大学・施設の見学会や講義・ゼミナールの聴講会を適宜実施しており、本学の教職員も出張講義や大学説明会で高等学校に赴く機会も増加している。提携先の高等学校から本学に入学する生徒は概ね学習意欲が旺盛であり、将来に対する目的意識を持ちながら課題に取り組む様子が窺える。今後もこれらの相互の交流を通じ、生徒の視野を広げ、知的好奇心を刺激し、学習水準を高めるとともに、教育内容等への理解を深め、大学教育と高等学校との連携を図り、互いの教育の更なる活性化を目指していく。

### 《国際交流について》

1) 国際交流については、大学を挙げて積極的に推進し、2023(令和5)年3月末現在の大学間における国際交流協定校は、27カ国/地域・80機関となっている。

(大国交9-3 大学協力協定締結状況)

2) 海外の大学等との連携活動実績は、次のとおりである。

(1) 2020(令和2)年11月20日、本学と国際協力機構(JICA)は、保健医療分野等の連携協定を締結した。本協定は、途上国における保健医療分野等の支援を強化するため、より包括的な連携を目指し、SDGs(持続可能な開発目標)ゴール3「すべての人に健康と福祉を」に貢献することを目的としている。成果として、大学院医療看護学研究科に秋入学制度を活用した留学生対象のコースを開設した(博士前期課程「グローバルナーシングコース」、博士後期課程「グローバルナーシングリーダーシップコース」)。

(大国交9-4 JICAとの協定締結について)

(2) 2013(平成25)年度から、東京医科歯科大学と相互協力体制を構築し、両校の留学生の日本文化交流や日本語教育事業を共同で実施している。

(大国交9-5 順天堂大学・東京医科歯科大学日本文化交流プログラム)

(3) 新型コロナウイルス感染症の影響により、一部の大学間交流イベントはオンラインにて実施されたが、徐々に制限が緩和されたことに伴い対面でのイベントも実施された。

(大国交9-6 2022年度表敬訪問・行事一覧)

3) 2014(平成26)年度に医学部の外国人学生及び短期研修生の受け入れ増を視野に入れ、従来の英語版ホームページ(トップページ)のリニューアルを行った。既存の内容についてサイトのデザインを含めて順次更新を進めた結果、受入数の増加につながった。2018(平成30)年度には377名と過去最大に達し、2019年度(平成31)も着実に受入数を伸ばしていたものの、新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により日本への入国制限が実施されたことに伴い、2020(令和2)～2021(令和3)年度の受け入れは大幅に減少した。2022(令和4)年度の途中から受け入れ制限が緩和され、短期研修生の受け入れを再開し、170名を受け入れた。

(大国交9-7 医学部短期研修生受入数の推移)

4) 新型コロナウイルスの感染拡大に伴う、政府、文部科学省及び外務省の方針により、本学においても教職員の海外出張、学生の海外渡航・受け入れを一部制限した。海外渡航については外務省が発出する感染症危険情報レベルに応じた渡航制限を設定し、日本への入国・帰国

## 第9章 社会連携・社会貢献

については待機場所及び待機期間を設定した。

- 5) 上記の他、ロシアによるウクライナへの軍事侵攻の影響で教育や研究を継続することができなくなったウクライナの学生や研究者を受け入れ、教育や研究の機会を提供している。2022(令和4)年6月から3か月または1年間の予定で、学生、研修医、研究者など計18名を受入れている。支援内容は、渡日・帰国に必要な往復航空券、本学の寮の無償提供、生活支援金(月額6万円)、授業料の不徴収である。学生は、医学部の見学型臨床実習(ダビンチ手術見学、成果報告会等)、医学部の1年生英語クラス、保健医療学部の医療英会話セミナー等へ参加している。また、2022(令和4)年8月18日にはウクライナの状況や戦時下における医療体制、医学教育に関する国際シンポジウムを開催した。

(大外交9-8 ウクライナからの学生等への支援について)

#### 《その他の社会貢献活動について》

- 1) 本郷・お茶の水キャンパスのセンチュリータワー17階にある「日本医学教育歴史館」は、順天堂創立175周年記念事業の一環として開設され、日本の医学教育の歴史を資料等により検証できる本邦初の常設展示施設である。2019(令和元)年度まで一般公開(火・木曜日)していたが、2020(令和2)年度以降、新型コロナウイルス感染症の拡大を受けて一般公開を中止している。

(大総務9-8 施設・関連団体ホームページ 「日本医学教育歴史館」)

以上のとおり、本学は、方針に基づき、各組織が自治体や企業等の学外機関と連携し、公開講座・シンポジウム・スポーツ教室等の開催、共同研究の推進、地域交流、国際交流等を行い、教育研究成果を社会に還元していると評価する。

**点検・評価項目③：社会連携・社会貢献の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。  
また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。**

#### 【評価の視点】

- 1：適切な根拠(資料、情報)に基づく点検・評価  
2：点検・評価結果に基づく改善・向上

- 1) 本学は、毎年度、大学・各学部・研究科・管理部門等の単位で、(公財)大学基準協会の大学基準に準拠し、内部質保証の推進に必要な自己点検・評価を行っている。社会連携・社会貢献の適切性は、各学部・研究科、社会連携推進室、国際交流センター、研究戦略推進センター、革新的医療技術開発研究センター、アドミッションセンター及び大学評価支援室において、それぞれ根拠資料に基づく点検・評価を行っている。点検・評価の結果、認識された問題点については、当該部署を中心に改善に取り組み、次年度末までに内部質保証推進委員会委員長宛に改善状況報告書を提出することとしている。問題点及び改善状況は一覧表にまとめられ、毎年度、自己点検・評価運営委員会及び内部質保証推進委員会で検証された後、学長に報告される。学長は更なる改善が必要な場合には、必要な指示を出すという仕組みになっている。近年、改善した実例のうち主なものとして、COVID-19の影響で、多くのイベントが制限を受けたが、感染状況を踏まえて、対面とオンラインの両方での実施が柔軟に変更できるような体制が整備されたことが挙げられる。

(大大評2-14 第16次(令和3年度)自己点検・評価報告書 問題点及び改善策 まとめ)



## 第9章 社会連携・社会貢献

(大大評2-42 自己点検・評価運営委員会(R4-1)議事録\_令和4年5月)

(大大評2-33 内部質保証推進委員会(R4-2)議事録\_令和4年5月)

- 2) 社会連携・社会貢献に関する部署においては、それぞれ、運営委員会等において、事業内容の点検・評価を行い、その結果を踏まえ次年度以降の計画等を策定している。

### 《社会連携・社会貢献について》

- 1) 大学全体として、社会連携に関する具体的な事業計画の策定及び各キャンパス、附属病院における取り組み状況等の点検・評価等については、事業の有効性や適切性の観点から、学長を委員長とする社会連携推進委員会で審議し、検証している。委員会では、各々の地域で実施した公開講座、シンポジウム、スポーツ教室、学生のボランティア活動等についての報告及びこれらの実績を踏まえた次年度計画の説明を受け、大学全体としての課題と改善策について情報共有を図っている。特に、コロナ禍における活動実施方法やそれに伴うメリット、デメリット等に関して情報共有が行えたことで、それぞれの部門において今後の活動について大きな参考となった。社会貢献活動として、各キャンパス・附属病院における新型コロナウイルス感染症ワクチン接種に関わる態勢等の確認を行った。

(大社連9-2 社会連携推進委員会議事録(令和4年7月))

- 2) 各キャンパス(学部・研究科)においても、それぞれ公開講座等の開催や分室会議等において、その活動状況の点検・評価が行われ、更なる充実が図られるようになっている。

- (1) 本郷・お茶の水キャンパス(医学部・医学研究科)では、医学部・大学院医学研究科における教育・研究活動で得られた成果を、公開講座等を通じて広く社会に向けて発信している。参加者に対してアンケート等を行い、次年度への課題や改善として活用している。また、毎年作成される社会連携事業実績報告及び次年度活動計画を作成する際に、改善・向上に向けた取り組みを検討している。医学部では、東京都、新潟県、千葉県、埼玉県、静岡県、茨城県の各都県に地域枠の入学定員を設けており、卒業生は各都県が指定する医療機関に勤務することで地域に対して社会貢献している。

- (2) さくらキャンパス(スポーツ健康科学部・大学院スポーツ健康科学研究科)では、社会連携推進室さくら分室が関わる公開講座等における社会連携事業実績報告及び次年度活動計画を作成する際並びに年2回程度開催される法人全体の社会連携推進委員会において、改善・向上に向けた取り組みを検討している。2022(令和4)年度も、COVID-19の影響が残り十分な活動が出来なかったが、これまでのCOVID-19への対応経験を踏まえ、オンラインと対面を併用し、コロナに配慮したイベント構成に組み替える等の改善を加えながら各所からの要請に積極的に対応した。

- (3) 浦安キャンパス(医療看護学部・大学院医療看護学研究科)では、社会連携推進室(浦安キャンパス分室)と自治会、地域連携委員会学生による連絡会議を定期的で開催しており、活動状況について検証を行いながら、地域社会との連携及び貢献の推進を図っている。また、高大接続プログラム部会において、プログラムの実施方針等について評価・検討を行い、改善点等の検証を行っている。2022(令和4)年度には今まで個別に協定を結んでいた浦安市と市内大学(順天堂大学・明海大学・了徳寺大学)の連絡協議会が発足した。本学は医学部附属浦安病院、浦安・日の出キャンパス及び浦安キャンパスが協働でそれぞれの特性を活かし市と連携をとっていくこととなった。

(大医看9-1 社会連携推進室連絡会議議事録(令和4年6月))

## 第9章 社会連携・社会貢献

(大医看9-2 浦安市・市内大学連絡協議会議事録 (令和5年2月))

- (4) 三島キャンパス (保健看護学部) では、社会連携推進室 (三島キャンパス分室) 会議を開催し、公開講座や学生ボランティア活動状況について評価している。外部講師の引き受けにより研究成果を還元する機会は増えている。COVID-19 の影響もあり学生ボランティア活動は減少傾向にあったが、2022(令和4)年度は増加している。

(大保看9-1 社会連携推進室会議議事録 (令和5年3月))

(大保看9-2 公開講座企画委員会議事録 (令和5年3月))

- (5) 本郷・お茶の水キャンパス (国際教養学部) では、地域社会への貢献のため、定期的に市民公開講座やフォーラムを開催しており、毎年、教授会において、学部長から開催することの意義・必要性、総括的な振り返り、次年度の方針等が示されている。

(大国教9-1 国際教養学部教授会議事録 (令和5年1月))

- (6) 本郷・お茶の水キャンパス (保健医療学部) では、地域社会への貢献のため、市民公開講座や特別講演を開催しており、教授会において総括的な検証を行っている。

(大保医9-2 保健医療学部教授会議事録 (令和4年12月))

- (7) 浦安・日の出キャンパス (医療科学部) では、2023(令和5)年度も引き続き、地域社会への貢献のため、定期的に地域公開講座を開催する予定である。教授会において総括的な実施結果の検証を行い、実施計画を策定する予定である。

### 《産学官連携について》

- 1) 革新的医療技術開発研究センターでは、企業や研究機関等との共同研究を推進し、研究開発シーズの社会実装を促進するため、オープンイノベーションプログラム GAUDI を発足し、会員制の研究開発支援プログラムを行っている。革新的医療技術開発研究センター運営委員会においては、会員企業及び学内外アカデミアの支援状況や共同研究等の進捗状況が報告され、医師・生物統計家・研究事務局員等の多職種から構成される委員による評価・改善が行われている。改善が必要な事項についてはその方策を協議し実践している。

(大革新9-4 令和4年度第6回革新的医療技術開発研究センター運営委員会議事次第)

- 2) 産学官による連携協定を締結する愛知県東郷町とは、協定書に基づく東郷町民の健康寿命の延伸、生涯スポーツ及び地域の振興に寄与することを目的として、事業や共同研究を円滑に実施するための会議を定期的に開催し、進捗状況、評価及び改善について検証してきた。また、検証結果に基づき事業や共同研究体制の拡充にむけて東郷健康寿命延伸協議会を開催してきた。これら取り組みの発展として、2021(令和3)年3月よりウエルアート(株)との共同研究を開始し、同町をはじめ岐阜県土岐市等、中京圏での連携を進めている。

(大ス9-3 令和元年12月 東郷健康寿命延伸協議会(第5回会議議事録))

### 《他学との連携について》

- 1) 研究成果を社会に還元する目的で締結された連携協定については、それぞれ定期的にシンポジウムや報告会等を開催することで、活動の定期的な検証を行っている。

### 《国際交流について》

- 1) 毎月開催される国際交流委員会において、各研究科・学部から報告のあった国際交流に関する事項や国際共同研究・教育等具体的な業務の検証、各留学生の奨学金の受給状況、学生の生活に係る検討事項の共有、来訪団体の目的確認と対応等について適切に実施しているか検証を行っている。

## 第9章 社会連携・社会貢献

(大国交9-9 第151回国際交流委員会議事録)

以上のことから、各組織は、毎年度、社会連携・社会貢献に関する点検・評価及び事業統括を行い、その結果に基づき改善・向上に向けた取り組みを行っているとして評価する。

## (2) 長所・特色

## 《社会連携・社会貢献について》

1) 社会貢献については、本学の「健康総合大学・大学院大学」という特性を活かし、教育、研究、臨床成果、人的資源等を最大限に活用し、地元自治体等の意見や住民のニーズを積極的に取り入れ、地域社会のより一層の発展に貢献するという観点から、公開講座やシンポジウム・学術講演会等を数多く開催している。医学関係では最新の医療情報や技術等の提供があり、スポーツ関係では子供やスポーツに興味のある青少年等のための運動プログラム、高齢者にはロコモティブシンドローム予防のプログラムを行い、看護関係では市民参加型の体験学習等を行っている。引き続き、本学の特性を活かし、公開講座、シンポジウム、学術講演会等を開催することで、教育、研究、医療を通じて社会への還元を図っていく。

(大社連9-3 社会連携推進室ホームページ)

2) 大学院医学研究科では、2022(令和4)年度の博士課程入学者の約35%が社会人入学者であり、すでに社会の中で活躍している医師の生涯学習の機会として十分な役割を果たしている。また、連携大学院協定を締結している3研究機関(国立がん研究センター、国立国際医療研究センター、国立病院機構相模原病院)より、2022(令和4)年度も合計23名の博士課程入学者があった。毎年度、各研究機関から入学者を迎え入れており、医学教育と医学研究の連携に貢献できている。2017(平成29)年度には、文部科学省の「基礎研究医養成活性化プログラム」に採択され、本学及び連携大学(東京大学、福島県立医科大学)をICTと循環型人材交流で結び、地域中核病院において必要とされる死因究明、遠隔病理診断、ゲノム医療の知識を身に付けた病理医を育成し、地域における病理医の配置実現を目指すプログラムを開始している。引き続き、ホームページや募集要項、研究科説明会等において、社会人入学者の増加に向けた周知を図る。連携大学院については、大学院生の研究指導のみならず、本学と連携機関の共同研究への発展の可能性も視野に入れ、一層の連携強化を図る。

3) スポーツ健康科学部・大学院スポーツ健康科学研究科では、社会連携推進室分室により、周辺自治体との連携が進んでおり、市町村との公開講座・学術支援・スポーツイベント・学生ボランティア派遣等の活動を続けている。周辺自治体に共通したテーマとして「子どもたちの体力向上」、「中高齢者への健康指導・体力指導(ロコモ対策)」等の要望が多く、多くの自治体が抱えている問題に対し、同学部・研究科が中心的な役割を果たしている。社会連携協定を締結した自治体と合同で公開講座やシンポジウム・学術講演会・スポーツイベント等の行事を積極的に開催することで地域に貢献していきたい。また、東京オリンピック・パラリンピック競技大会を契機として、スポーツへの関心が高まっており、大会後もスポーツイベント開催等により、スポーツ振興面での貢献ができている。特に、本学は健康総合大学であることから、パラリンピックスポーツ振興に力を入れており、連携している印西市では、全ての中学校でパラスポーツ体験会を開催している。コロナ禍も鎮静の兆しが見えることから、今後周辺自治体との一層の連携強化・社会貢献の充実に努める。

## 第9章 社会連携・社会貢献

- 4) 医療看護学部・大学院医療看護学研究科では、定期的に健康増進や保健衛生に関するテーマで公開講座や高大接続プログラム等を開催し、教育研究の成果を社会に還元している。今後も公開講座・高大接続プログラム等を継続して開催するとともに、支援が必要な子ども・高齢者・在宅患者・被災地等への学生ボランティア活動、自治体との連携協力による講演会・防犯活動・調査研究活動等を通じて、地域住民の健康増進、保健衛生に貢献していく。
- 5) 保健看護学部では、定期的に公開講座を開催し、教育研究成果を社会に還元している。今後は自治体・実習施設等からの学生ボランティア活動要請に門戸を広げ、情報提供や活動報告を積極的に行うことにより、地域活動を通じた社会連携・社会貢献の充実を図る。
- 6) 国際教養学部では、定期的に市民公開講座やフォーラムを開催し、教育研究の成果を社会に還元している。今後も大学の社会連携推進室と協同で、学部の社会連携・社会貢献を活性化させ、更なる充実を図る。
- 7) 保健医療学部では、市民公開講座等を通じて教育研究の成果を社会に還元している。今後、実施内容や開催頻度を検討の上、更なる充実を図る。
- 8) 医療科学部(2022(令和4)年度開学)では、開学当初より地域公開講座等を通じて教育研究の成果を社会に還元している(当該年度8回)。今後、実施内容や開催頻度を検討の上、更なる充実を図る。

## 《産学官連携について》

- 1) 本学では、近年、寄付講座及び共同研究講座による産学連携が活発に行われており、その数は59講座と国内有数となっている。例えば、2022(令和4)年度には、「メディカル・メタバース共同研究講座」など社会実装を目指す研究講座も開設している。今後も、この流れを継続し、様々な企業との連携により、最先端の研究成果を社会に還元していきたい。
- 2) 本学では、2019(令和元)年7月に本学の持つ大規模臨床プラットフォームを活用したオープンイノベーションプログラム GAUDI を発足した。学内のARO(Academic Research Organization)のみならず学外の専門機関とも連携し、研究開発シーズを社会実装に向けてワンストップで支援している。今後も学内外の研究開発シーズを積極的に支援し、研究成果を社会実装に繋げていきたい。
- 3) 2021(令和3)年5月度に発足した「順天堂未来医療戦略会議」は、「人々の命をまもりウェルネスを増進」させる未来先取り型の医療技術・知を創出すること、あわせて未来医療(ゲノム医療・再生医療・ロボティクス・IT活用)を支える有為な人材育成に資することを目標とし、現在までに10回の会議が行われた。毎回2、3の最先端のテーマを発表し、実用化に向けての協議・検討が行われている。成果としては、遺伝子検査の改善により子宮体がん手術の患者負担を大きく軽減する革新的医療技術の開発や、早産マーカーの開発にもほぼ道筋をつけ、知財を出願完了し、実装化に向け鋭意推進中である。感染症関連に関しては、迅速・高精度な検出技術開発に注力中で社会実装を目指し推進している。今後とも成果の社会還元注力するとともに、新規テーマの取り組みも進め、活動を更に発展させていきたい。  
(大革新9-5 順天堂未来医療戦略会議議事録)
- 4) 花王株式会社との研究包括協定に基づく共同研究については、第9回連携協議会を開催し、活動状況の確認を含め、主要テーマ(感染制御研究、創傷治癒研究、かゆみ関連研究、アレルギー制御研究)について活発な議論・方向付けを行った。また文京区が主催する「文京博覧会」において、区内の大学として「大学が企業等と提携開発した製品や産学連携の取り組み等

## 第9章 社会連携・社会貢献

のパネル展示」に参画し、花王連携研究により開発・製品化された、乳がん用消臭パッド、ヒーリアデオドラントパッドに関する展示を行い地域貢献と製品普及活動に努めた。

(大革新9-6 第9回花王・順天堂連携協議会アジェンダ)

### 《国際交流について》

1) 国際交流センター長を中心として、国際交流委員会が定期的開催されている。委員会では、各研究科・学部から報告のあった国際交流に関する事項のほかに、定型的な報告事項として、国際交流協定校情報、来訪団体、海外からの短期研修受入状況、留学生状況、奨学金、英語版HP、文化教育活動等の報告等を行っている。本学の国際交流の情報が集約できるよう有効に機能している。留学生等の受け入れは、2023(令和5)年3月末現在、大学全体で長期外国人留学生(在留資格:留学)が19カ国/地域から合計158名(うち、研究生14名)で、海外の大学・機関に所属する短期研修生が178名であった。新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う入国制限により短期研修生の受け入れ数が大幅に減少していたが、2022(令和4)年度に入り制限が徐々に緩和され、受け入れが回復してきている。本学の各学部・研究科は国際化を推進しており、また新型コロナウイルス感染症の影響下にあっても外国人留学生からの入学・研修に関する問い合わせは変わらず寄せられており、大学全体として海外機関との交流協定の締結や交流プログラムを検討している。また、国際レベルでの科学研究や共同研究に関する事項については、各研究科・学部、情報戦略・IR推進室、研究戦略推進センター、革新的医療技術開発研究センターなどとの更なる連携を目指す。

(大国交9-10 留学生の研修・交流活動について)

2) 医学部は、国際交流を積極的に進めており、ウクライナを始め、海外の医学部生の受け入れを実施している。

### (3) 問題点

#### 《社会連携・社会貢献について》

1) 公立中学校における運動部活動の地域移行については、近隣自治体からスポーツ健康科学部への期待は大きい。しかし、安全管理体制の構築や予算確保など、学校を含む近隣自治体における体制が未確定であることから、近隣自治体が開催する協議会に関係教員が参加して情報収集を実施する必要がある。

2) 保健看護学部では、公開講座へ多数の住民に参加してもらうため、対面型開催の来場に際しては、予約制から当日参加も受け入れることなどの呼びかけを行っていきたい。また、感染対策に加え、災害時の対策も含め、来場者の安全確保のための運営マニュアルを作成する。

3) 保健看護学部では、学部の基本コンセプトである「地域の人々の保健衛生・健康保全に貢献できる看護職者を養成する」ためには、地域に興味を持ち人々との交流を更に促進する必要があると考えている。学生ボランティアの活動内容の多様化を図り選択肢を増やすことで、ボランティア活動に関心を寄せ、参加しやすい環境を整備することが課題である。大学周辺の自治体・自治会、看護・福祉系実習施設等への働きかけを行う。

4) 2022(令和4)年度に開学した医療科学部では、開学当初より地域公開講座を開講しているが、参加者は、ほぼ60歳から70歳であるという現状が明らかになった。主に高齢者を対象とした健康予防に関するテーマが多かったことが要因として考えられるが、今後の展望として、幅広い年代が興味や関心を持てるテーマを設定することや、オンライン受講の方法を取り入

## 第9章 社会連携・社会貢献

れるなど、幅広い年代が親しみやすいと感じる地域公開講座となるように検討していきたい。

### 《産学官連携について》

- 1) 本学では、近年、寄付講座及び共同研究講座による産学連携が活発に行われており、設置数は59講座となり、国内有数となっている。今後の課題としては、研究成果の社会実装を更に推進していく必要がある。社会実装には相当な年数と支援が必要となるため、本学では革新的医療技術開発研究センターを中心に実用化研究の支援を行っている。実用化研究には、開発研究資金の確保やプロジェクト管理が必要なため、資金確保や開発プロジェクトの社会実装を進めるため、研究戦略推進センターと革新的医療技術開発研究センターが連携のうえ外部機関や専門家等と連携して推進していく予定である。
- 2) 個別に連携協定を締結している企業・団体等との連携・共同研究に関しては、成果の社会還元を実現することが目標であり、課題となる。これまでも、研究進捗の見える化や、論文や学会発表、知財出願を介した成果の社会還元に努めているが、今後は更に実用化を目指し研究推進を図りたい。例えば、国立研究開発法人理化学研究所との連携に関しては、更なる研究の拡大推進と実用化を目指し、新たに「順天堂未来医療戦略会議」を発足させた。より多くの最先端の研究者・医療従事者の知を終結させ、新たな医療ニーズの把握と技術シーズの開発・深化、実用化加速に向け継続的活動ができる体制とした。花王株式会社との研究包括協定に基づく共同研究については、引き続き連携協議会を開催して新たなテーマの立ち上げや課題の改善を進めるとともに、支援体制も強化し、相互交流等含め活性化を維持したい。

### 《国際交流について》

- 1) 海外からの関心の高まりを受け、多くの短期研修生・外国人研究者・長期留学生在が本学に来訪しており、本学が所有する宿舎への入居を希望する全ての学生に対して提供することが困難な状況が慢性的に生じている。引き続き、実質的な運用・効率的な案内方法の構築、日常生活のサポートといった、受け入れ環境の一層の改善が求められており、関係各所と調整していく。なお、2024(令和6)年度中に新しい学生寮が竣工するため、状況の改善が期待される。

### (4) 全体まとめ

地域社会・自治体との連携は「社会連携推進室」、企業・研究機関との連携は「研究戦略推進センター」及び「革新的医療技術開発研究センター」、国際交流・国際化は「国際交流センター」がそれぞれ中心的な役割を果たし、全学を挙げて推進している。自治体との連携協定締結が進み、教育研究成果を社会に還元する各種取り組みが行われている。公開講座・シンポジウム開催や講師派遣も積極的に行われている。他学、企業、学外研究機関等との連携も進み、特許出願等の成果が出ている。また、医学部附属病院を通じた地域への貢献も果たしている。

このように本学は、国際的研究・教育拠点として、地域社会、産業界、国際社会等との幅広い連携活動を展開できており、教育・研究・臨床の成果を広く社会に還元している。

## 第9章 社会連携・社会貢献

## (5) 根拠資料

資料No.	各部署の資料整理No.	資料名称
1	大大評9-1	法人ホームページ 「各種方針」 「社会連携・社会貢献に関する方針」 <a href="https://www.juntendo.ac.jp/about/pr/policy/">https://www.juntendo.ac.jp/about/pr/policy/</a>
2	大社連9-1	学校法人順天堂社会連携推進室運営規程
3	大大評9-2	各学部・研究科の社会連携・社会貢献に関する方針
4	大研戦9-1	順天堂大学産学官連携ポリシー <a href="https://www.juntendo.ac.jp/research/collaboration/policy/">https://www.juntendo.ac.jp/research/collaboration/policy/</a>
5	大研戦8-4	順天堂大学研究戦略推進センター管理運営内規
6	大革新8-1	順天堂大学革新的医療技術開発研究センター管理運営規程
7	大革新9-1	GAUDI パンフレット
8	大大評9-3	大学間連携一覧 <a href="https://www.juntendo.ac.jp/about/pr/information/">https://www.juntendo.ac.jp/about/pr/information/</a>
9	大国交9-1	順天堂大学 国際化ビジョン
10	大国交9-2	順天堂大学国際交流センター運営規程
11	大大評9-4	各学部・研究科・附属病院における社会連携・社会貢献の取組み
12	大革新9-2	順天堂大学と理化学研究所が包括的基本協定
13	大革新9-3	順天堂大学と花王が産学連携の研究包括契約を締結
14	大総務9-1	学校法人順天堂と東急不動産株式会社が包括連携協定を締結
15	大ス9-1	順天堂大学と公益財団法人日本サッカー協会が包括的連携協定を締結
16	大ス9-2	順天堂大学と日本スポーツ振興センターが包括的連携協定を締結
17	大大評3-2	令和4年度 事業報告書 <a href="https://www.juntendo.ac.jp/about/pr/information/">https://www.juntendo.ac.jp/about/pr/information/</a>
18	大再編9-1	学校法人順天堂と学校法人早稲田大学との共同研究に関する覚書
19	大再編9-2	次世代環境医療研究会組織図
20	大再編9-3	2014(平成26)年2月21日(金)東京新聞「東京消防庁新基準適用第1号 順天堂の新病棟で訓練」
21	大総務9-2	学校法人順天堂と学校法人女子美術大学が連携・協力に関する基本協定を締結
22	大総務9-3	国立大学法人電気通信大学と順天堂大学との学術連携交流協定書
23	大総務9-4	電気通信大学・順天堂大学・星薬科大学による学術連携交流協定締結
24	大総務9-5	順天堂大学と立命館大学が学術交流協定を締結
25	大総務9-6	順天堂大学と明治大学が包括協定を締結
26	大総務9-7	順天堂大学と東京藝術大学が連携・協力協定を締結
27	大国交9-3	大学協力協定締結状況
28	大国交9-4	JICA との協定締結について
29	大国交9-5	順天堂大学・東京医科歯科大学日本文化交流プログラム
30	大国交9-6	2022年度表敬訪問・行事一覧
31	大国交9-7	医学部短期研修生受入数の推移
32	大国交9-8	ウクライナからの学生等への支援について

## 第9章 社会連携・社会貢献

資料No.	各部署の資料整理No.	資料名称
33	大総務9-8	施設・関連団体ホームページ 「日本医学教育歴史館」 <a href="http://www.juntendo.ac.jp/jmehm/">http://www.juntendo.ac.jp/jmehm/</a>
34	大大評2-14	第16次(令和3年度)自己点検・評価報告書 問題点及び改善策 まとめ
35	大大評2-42	自己点検・評価運営委員会(R4-1)議事録_令和4年5月
36	大大評2-33	内部質保証推進委員会(R4-2)議事録_令和4年5月
37	大社連9-2	社会連携推進委員会議事録(令和4年7月)
38	大医看9-1	社会連携推進室連絡会議議事録(令和4年6月)
39	大医看9-2	浦安市・市内大学連絡協議会議事録(令和5年2月)
40	大保看9-1	社会連携推進室会議議事録(令和5年3月)
41	大保看9-2	公開講座企画委員会議事録(令和5年3月)
42	大国防9-1	国際教養学部教授会議事録(令和5年1月)
43	大保医9-1	保健医療学部教授会議事録(令和4年12月)
44	大革新9-4	令和4年度第6回革新的医療技術開発研究センター運営委員会議事次第
45	大ス9-3	令和元年12月 東郷健康寿命延伸協議会(第5回会議議事録)
46	大国防9-9	第151回国際交流委員会議事録
47	大社連9-3	社会連携推進室ホームページ <a href="https://www.juntendo.ac.jp/sustainability/effort/cooperation/">https://www.juntendo.ac.jp/sustainability/effort/cooperation/</a>
48	大革新9-5	順天堂未来医療戦略会議議事録
49	大革新9-6	第9回花王・順天堂連携協議会アジェンダ
50	大国防9-10	留学生の研修・交流活動について